

八 尾 空 港

八尾空港は大阪府の中央部、J R大阪駅から約20kmの八尾市を中心とする河内平野に位置し、空港の東約3 kmには南北に生駒山系があり、南1 kmには大和川が東西に流れ、大阪湾に注いでいる。なお空港西側に大阪市営地下鉄谷町線の八尾南駅がある。

当空港には固定翼、回転翼合わせて約150機が常駐し、これら小型機による様々な業務が行われている。まず当空港に基地を置く官公庁としては、陸上自衛隊八尾駐屯地中部方面航空隊、第五管区海上保安本部八尾航空基地、大阪府警本部航空隊、大阪市消防局航空隊がある。一方、使用事業、不定期航空運送事業としては13社が小型機による報道取材、写真測量、操縦訓練、建設協力、宣伝広告、遊覧飛行、薬剤撒布等を行っており、このほか一部ではあるが自家用機を使用した業務活動等も行われている。わが国では数少ない小型機専用空港である。

八尾空港は昭和9年、同地に阪神飛行学校が開設されたことに始まる。次いで昭和13年6月には逓信省航空局米子航空機乗員養成所阪神分教場となって、本格的な乗員教育が開始され、翌昭和14年には「大正飛行場」と呼称され、面積も85万坪となる。昭和15年には各務原陸軍航空廠の補給所が設置されるが、以後第二次大戦中は軍用飛行場となり、現在のA、B滑走路が設置された。昭和20年8月終戦、米軍に接収され、「阪神飛行場」と呼ばれて航空隊、レーダー隊、ヘリコプター隊の連絡基地となる。また米軍の了解を得て

A、B滑走路及び誘導路に囲まれた区域(通称三角地)の農耕が開始される。昭和29年5月米軍は撤退し、同年8月日本政府に返還されるが、周辺農民による農地返還運動が激化することとなる。これは戦時中農地を強制収用された旧土地所有者を中心とするもので、昭和30年8月には飛行場としての機能が保持できる範囲に面積を限定し、その他の土地は払い下げられて概ね現在の姿となっている。

その後昭和31年8月八尾飛行場の設置告示で公共用飛行場となり、35年7月供用開始告示、昭和36年5月第二種空港に指定されて「八尾空港」となる。また昭和55年に入ってから三角農地の離農交渉は順調に進み同年12月に合意が成立した。翌56年2月返還手続きを完了した三角農地の整備は、昭和57年5月策定の「八尾空港ターミナル地域整備基本計画」に基づき本格的整備事業が開始され、誘導路、エプロン等整備のほか新庁舎建設などが実施された。海上保安庁、市消防局、民航各社は用地造成完了を待って次々と格納庫、事務所の建設を進め、昭和59年3月末の庁舎、総合ビルの完成によって同整備は概ね完了した。その後昭和60年12月に固定翼エプロン7,170㎡が増設された。

八尾空港整備の一環として建設された八尾空港総合ビルは軽量鉄骨2階建て790㎡のビルで、自社建物を持たない事業者への賃貸と、空港内勤務者、来港者等に食堂等利便施設を提供するもので、関西国際空港ビルディング㈱が設置管理している。(編集部)

空 港 諸 元 八尾空港

基 本 事 項	空 港 名	八尾空港				種 別	第二種空港
	設 置 管 理 者	運輸大臣				供用開始年月日	昭和35年7月
運 航 状 況	空 港 の 位 置	大阪府八尾市空港二丁目				標点位置：北緯34°35'36" 東経135°36'12"	
	年間着陸回数(回)	民 間 機		そ の 他		計	2 4 1 4 4
	年間旅客数(人)	国内線		国際線		計	
	年間貨物取扱量(トン)	国内線		国際線		計	
基 本 施 設	空港敷地面積(ha)	滑 走 路		誘 導 路		エ プ ロ ン	運用時間
	80 ha	(A)1,490m×45m (09-27) (B)1,200m×30m (13-31)		総延長1,470m		ノースエプロン 14,320㎡ サウスエプロン 31,100㎡	8:00～19:30
ターミナル 諸 施 設	ターミナルコンセプト						総合ビル 790㎡
	旅客ターミナルビル						
	駐 車 施 設						
	貨 物 取 扱 施 設						
ア ク セ ス	J R大阪駅から約20 Km、空港西側に市営地下鉄谷町線「八尾南駅」がある						